

秩父農林振興センターだより

第17号

(平成29年3月発行)



埼玉県のマスコット
コバトン

編集・発行: 埼玉県秩父農林振興センター

TEL: 0494(24)7211(代表) FAX: 0494(23)8369

URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0904/index.html>

E-mail: t247211@pref.saitama.lg.jp

秩父地域で初めて農地中間管理事業による農地集積が行われました

平成28年6月に、秩父市下吉田の市場広瀬地区及び暮坪地区で転貸が行われたのを皮切りに、今年度、秩父地域全体で9.2ha（うち、新規集積3.3ha）の転貸が行われました。

農地中間管理事業とは、農地を貸したい方（出し手）から農地中間管理機構が農地を借受け、農業経営を拡大したい方（受け手）にその農地を貸付けることにより、農地の集積・集約化を進める事業です。

埼玉県から農地中間管理機構として指定を受けた埼玉県農林公社が農地の貸借を仲介することにより、双方にとって安心して安定した貸借となり、契約手続きも簡単に行えるなどのメリットがあります。

(農地中間管理事業のしくみとメリット)

今後も管内各市町を窓口として、農地中間管理事業を活用した農地の貸借を進めていきます。詳しくは、[埼玉県農林公社ホームページ](#)を御覧ください。

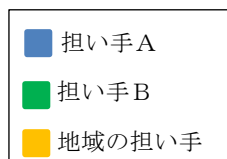
秩父市下吉田地区における農地集積状況



市場広瀬地区



暮坪地区



高濃度炭酸ガスによるいちごのハダニ類防除技術

ハダニ類は、いちごの葉裏などに潜み、汁を吸う微小害虫です。薬剤抵抗性が発達しやすいため、化学農薬による防除が難しくなっています。多発すると葉が白く色が抜けたようになるほか、果実の糖度が下がるなどの害があります。栽培期間が長期にわたるいちごでは影響が大きいため、効果的な防除技術が求められていました。

そこで、県農業技術研究センターとともに、新しい技術である「高濃度炭酸ガス処理」の現地実証を行いました。



いちごの葉上にいるハダニ

この技術は、特殊な袋の中に定植前の苗を入れ、高濃度の炭酸ガスを注入しハダニを死滅させるというもので、高い効果が見られました。処理を行った苗は9月の定植後から年内までのハダニ類の発生が少なく、化学農薬の散布回数を大幅に減らすことができました。秩父地域でも装置の導入が始まっています。今後は、炭酸ガス処理装置などを使った防除技術を普及拡大していくとともに、栽培期間（9月～翌6月）を通じてハダニ類の発生を抑える技術の確立を支援します。



高濃度炭酸ガス処理装置

雨よけアスパラガスへの挑戦はじまる

小鹿野町では、雨よけアスパラガス栽培が始まっています。平成28年から、きゅうりの栽培が難しくなった生産者1戸がパイプハウスを活用し、雨よけアスパラガス栽培に転向しました。4月に根株を定植、9月には収穫ができました。平成29年春から本格的にJAちちぶ園芸部会として東京市場へ出荷する予定です。



雨よけアスパラガスハウス（7月）

平成28年9月には、アスパラガス生産者とアスパラガス生産に興味ある人、小鹿野町役場、農林振興センターで、狭山市に先進地視察へ行きました。アスパラガス栽培の魅力である、労働負荷が少ない、防除回数が少ない、収益性が高いことなどが確認できました。この結果、平成29年度、新たに栽培を開始する人が2名増え、合計3名でアスパラガス生産がされることになりました。



先進地視察（狭山市）

埼玉スマートGAP（S-GAP）であなたの農業の点検をしましょう！

GAPとは、「Good Agricultural Practice」の略で、「良い農業のやり方」という意味です。もっと具体的にいうと、食品安全、労働安全、環境保全それぞれに配慮した農業を意味しています。

しかし、いざ農業者がGAPに取り組もうとしても、具体的に何をすればよいのかわからないというのが現状でした。

このため、埼玉県では、農業を行う上で守るべきことをわかりやすい表現でまとめたS-GAP仕様書を策定しました。

さらに、県では平成29年10月からS-GAP農場評価制度を開始しました。これは、評価員である県職員が農業者の皆様の農場を訪問し、法律や規則の違反がないか、危険の見落としがないかなどと一緒に確認するものです。

S-GAP仕様書の中の該当するすべての項目についてクリアすれば、県からS-GAP認定農場として認定されます。詳しくは、農林振興センター管理部にお問い合わせください。なお、S-GAP仕様書などは、[埼玉県農産物安全課ホームページ](#)からダウンロードできます。

農薬保管状況の改善事例



「新たな農業経営指標」で経営状況を自己チェックしよう！

農林水産省では、農業者が自らの経営状況をチェックし、経営マインドの向上や経営内容の改善を図ることを目的として、「新たな農業経営指標」を作成しています。

この経営指標は、三つの指標（取組・技術・財務）から経営評価ができるようになっています。

[農林水産省ホームページ](#)にアクセスして、データ入力することで利用できますので、経営発展のために活用してみましよう。

<農業の6次産業化> 想いを実現するために事業化計画を立てよう！

農業の6次産業化とは、農業者が、農産物の生産に加え加工や流通販売にも主体的にかかわり、農業経営に新たな付加価値を取り込むことです。

「自家の農産物を加工して、販売してみたい。」「規格外の野菜を何かに活用したい。」と漠然と思っているだけでは何も実現しません。そんな時は、紙に書きだしてみましょう。

埼玉県では、農業の6次産業化支援のため「農業の6次産業化事業計画書（経営ビジョンシート）」を作成しています。計画書作成に当たり自分の思いを形にしていく「農業の6次産業化事業計画書作成ガイド」も御用意しました。農業者の皆さんの想いを実現するために、是非御活用ください。

詳しくは、農林振興センター農業支援部にお問い合わせください。

事業計画の様式は、[埼玉県農業ビジネス支援ホームページ](#)からダウンロードできます。



事業計画書と作成ガイド

多面的機能支払交付金の活用について紹介します！

1. 多面的機能支払交付金の紹介

農業・農村には、洪水や土砂崩れの防止、自然環境の保全、美しい景観の形成などの様々な働き（多面的機能）があります。多面的機能支払交付金は、こうした機能が適切に維持・発揮されるよう、地域の共同活動を支援するものです。地域での話し合い、組織づくりや計画づくり、活動参加者の日当や必要な資材の購入等に充てていただけます。（[チラシ](#)）

2. 実施地区の紹介と実施状況

平成20年度よりほ場整備事業を実施した「兔田暮坪地区」（秩父市下吉田）では、関兔田暮坪環境保全協議会メンバーにより、農道・ため池・用水路等の草刈りや法面の植栽が実施されています。



カワナナ養殖水路整備の様子

また、自然環境の変化に敏感なホタルの生育環境づくりを通じて、地元の小学生を対象に勉強会を実施したり、毎年7月には一般住民も参加するホタル祭りを開催しています。

3. 事業実施のお誘い

平成28年度時点で、秩父地域では16地区で本事業の取り組みが行われています。現在実施している集落活動の費用軽減や地域がまとまるきっかけづくりにもなりますので、是非本事業を御活用ください。

詳しくは、農林振興センター農村整備部にお問い合わせください。



ホタル祭の様子

「グリーン・ツーリズムマップ in 埼玉」 を更新しました

グリーン・ツーリズムとは、緑豊かな農山村で、自然や文化、人々との交流を楽しみながら、余暇をゆったりリラックスして過ごすことを言います。

秩父地域には、そば打ちやうどん打ち体験、いちごやぶどう、ブルーベリーなどの果物狩り体験、稲刈りなどの農作業体験のほか、地元産の新鮮な農産物を購入できる農産物直売所、緑に囲まれた宿泊施設など、グリーン・ツーリズムを体験できるスポットがたくさんあります。

埼玉県ではこうしたグリーン・ツーリズムを体験できるスポットを紹介するマップ「グリーン・ツーリズムマップ in 埼玉」の情報を平成28年度最新版に更新しました。このマップは農業ビジネス支援課や秩父農林振興センターなどで配布しています。

各スポットはポータルサイト「[グリーン・ツーリズム埼玉](#)」でも紹介しています。

近年はこうしたインターネットの情報を基に観光に訪れる人も増えています。

まだ掲載されていない施設は、農林振興センター管理部へ御相談ください。



マップのPDFファイルはコチラから
[MAP面&情報面](#)

「埼玉で農ある暮らし」 埼玉アグリライフサポートセンターがオープン

平成28年7月、有楽町駅前にある東京交通会館8階のNPO法人ふるさと回帰支援センター内に、県内農山村への移住希望者向けの相談窓口「埼玉アグリライフサポートセンター」がオープンしました。「埼玉アグリライフサポートセンター」では、移住相談の他にも、移住セミナーや体験ツアー等を実施しております。移住に興味がある方は是非訪ねてみてください。

また、Facebook ページ「埼玉アグリライフサポートセンター」では、移住関連情報に加えて、各市町村の魅力あふれる情報を配信しております。

秩父地域の1市4町は、川と山に囲まれた豊かな自然があり、年間400以上あると言われる「祭」など独特の文化が色濃く残っています。その中で、「農ある暮らし」がしてみたいという方は是非「埼玉アグリライフサポートセンター」や「各市町の移住相談窓口」へ相談してみてください。



[移住情報サイト「埼玉ではじめる農ある暮らし」](#)

森林認証制度の取組み

2020年東京オリンピック・パラリンピックの施設に使う木材は、国産の「認証材」を優先的に使用することが示されて以来、「森林認証」がクローズアップされてきました。

「森林認証」とは、1980年代熱帯雨林の違法伐採が、社会的、環境的に問題であるということが、世界的な関心事となり、各国共通の基準・指標づくりから出発した制度です。

第三者機関が適切な森林経営や持続可能な管理が行われているかを審査、認証し、そこから出された木材やそれを使った木材製品を分別して消費者に届けるもので、消費者は、選択的な購買により、適切な森林管理を支持するとともに、安心のおける商品を購入できるというメリットがあります。

埼玉県においても補助制度を平成28年度から創設し、普及に努めています。秩父農林振興センター管内の認証は、平成28年度末現在でFM認証（森林管理認証）1団体（秩父市）、C o C認証（適正な加工・流通の認証）2企業、1グループとなる予定です。

今後、公的施設への利活用、環境に関心の深いエンドユーザーなどへの販売を通じて、「木の文化」の継承と「適正な森林の保全・利用」が広く社会に普及・浸透して行くことが大いに期待されます。



FM認証を取得した秩父市有林（栃本）

秩父4Hクラブの活動紹介

秩父4Hクラブは、昭和24年9月7日に誕生した日本の4Hクラブのパイオニア「吉田4Hクラブ」を前身とする歴史ある4Hクラブです。

4Hとは、農業の改良と生活の改善に役立つ腕（Hands）を磨き、科学的に物を考えることのできる頭（Head）の訓練をし、誠実で友情に富む心（Heart）を培い、楽しく暮らし、元気で働くための健康（Health）を増進するという、同クラブの信条英語の頭文字を総称したものです。

現在、秩父郡市1市4町27人の青年農業者が所属し、会員相互の農業経営・技術の発展向上及び親睦を目的に、さまざまな事業を展開しています。

恒例となった秩父はんじょう博への出展では、昔クラブ員だったという大先輩から声をかけられることもあります。最近では、観光農業に携わる会員も多いことから秩父の魅力発信活動にも力を入れています。



「秩父を知る」をテーマに研修会を実施

森林とのふれあい施設の紹介

みどりの村（小鹿野町飯田・秩父市上吉田）

森の中に、遊具やフィールドアスレチックなどが整備され、小さな子供から大人までが一緒に楽しむことができます。遊び疲れたら、地元のお年寄りが運営するレストランで一服。年間を通じ、きのこの植菌や芋ほり、おひまちカフェ（家庭料理教室）など、イベントも沢山開催されます。春から秋にかけては、キャンプ場もオープンしています。

詳しくは、[みどりの村ホームページ](#)を御覧ください。



みどりの村キャラクター「みどりの」

県民の森（横瀬町芦ヶ久保）

車椅子の方でも、森林浴や自然観察を楽しむことができるウエルカムストリートを始め、トイレ、休憩所が整備されています。体力に応じて歩きながら、山野草や野鳥を楽しむことができます。

また、丸山山頂（標高960m）からの眺めは素晴らしく、「外秩父丸山の眺望」として県の名勝にも指定されています。

詳しくは、[県民の森ホームページ](#)を御覧ください。



県民の森

彩の国ふれあいの森（秩父市中津川）

原生林や自然景観に恵まれた中津川県有林での、トレッキングやイベントなどを通じて、森林に親しみ林業を理解する場所です。拠点施設の「森林科学館」は、毎日開催している木工教室のほか、木鉢作りなどの講座を開催しています。隣接する宿泊施設「こまどり荘」では、日帰り入浴もできます。

また、「中津川溪流釣り場」では、釣りやBBQを楽しめます。

詳しくは、[彩の国ふれあいの森ホームページ](#)を御覧ください。



彩の国ふれあいの森 森林科学館

新井範さん（秩父市） 緑白綬有功章を受章

秩父市影森地区で「秩父フルーツファーム」を営む新井範さんが、平成28年度大日本農会農事功績者表彰において緑白綬有功章を受章されました。

「ちちぶ山ルビー」の栽培技術、ブランドの確立に長年御尽力された功績と、地域でいち早く導入した「ぶどう」＋「いちご」による年間を通じた観光農業経営が高く評価されたものです。



新井 範 さん

石橋総一郎さん（秩父市） 毎日農業記録賞優良賞を受賞

秩父市太田地区で自家栽培したそばを提供する「石橋庵」を営む石橋総一郎さんが、2016年第44回毎日農業記録賞において優良賞を受賞されました。

「石橋庵」開店までのいきさつや、栽培している「そば」「米」「柿」を通じた地元農業への熱い思いを綴り受賞されました。



石橋 総一郎 さん

大滝山林振興協議会（代表：山中敬久 氏） 全国林業経営推奨行事で林野庁長官賞を受賞

大滝山林振興協議会（代表：山中敬久 氏）が第55回農林水産祭参加の全国林業経営推奨行事での優良林業経営体として、林野庁長官賞を受賞しました。

大滝山林振興協議会では、複数の所有者の森林を区域ごとに集約化し間伐を行っています。

間伐材は、IT技術を活用して、産地や生産者の情報を表示した木材として付加価値を高めて販売しています。

間伐後には、メープル樹液生産のためのカエデを植栽するなど先進的な活動を行っています。



授賞式の様子



山林内での集約化作業